

第 1 回京都市中学校教科書選定委員会会議概要

1 日時

平成 30 年 5 月 14 日（月） 18 時 30 分から 19 時 50 分まで

2 会場

京都市総合教育センター 永松記念ホール 他

3 出席者

(1) 選定委員 32 名

(2) 教育委員会事務局 11 名

在田教育長，清水教育企画監，佐藤総合教育センター所長，
池田指導部担当部長，清水指導部担当部長，諏佐学校指導課長，
関学校指導課担当課長，安藤統括首席指導主事，手塚統括首席指導主事，
坂本首席指導主事，安居首席指導主事

4 議事

教科書選定に関わる教育長からの諮問及び教育委員会事務局からの説明の後，調査研究部会（第 1 部会，第 2 部会，第 3 部会，第 4 部会，第 5 部会及び小学校部会）で協議が行われた。

(1) 在田教育長から挨拶及び平成 31 年度から平成 32 年度まで京都市立中学校及び義務教育学校（後期課程）学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書の選定についての諮問を行った。

(2) 安居首席指導主事から教科書選定の進行，公正確保等についての説明を行った。

(3) 委員の互選により正副委員長が選出された。

(4) 調査研究部会全体会で，業務内容説明及び部会長，副部会長の選出が行われた後，各部会において，調査研究における「選定の視点」や調査研究方法，今後の部会開催日程について協議が行われた。

第2回京都市中学校教科書選定委員会 外部委員への個別説明及び意見聴取

※ 第2回京都市中学校教科書選定委員会について、平成30年6月18日（月）午後6時半から京都市総合教育センターで開催予定のところ、同日午前が発生した大阪北部地震により、急遽休止としたため、外部委員に個別説明及び意見聴取を行った。

1 日 時

平成30年6月19日（火）～平成30年6月28日（木）

2 外部委員の主な意見

(1) 構成等について

- ・各社とも読み物教材に力を入れており、見せ方などを含め工夫が凝らされていると感じる。
- ・本冊と別冊で構成が異なる教科書があるが、支援の必要な生徒にとっては学習に取り組む上で難しさがあるかもしれない。

(2) 書く活動について

- ・小学校の採択時に、記述欄が多いことに不安を覚える委員もいたが、今後、社会に出て働いていくうえでも、自身の気持ちや考えをある程度しっかりとした文章で書き、表現する機会が大切だと思う。各社とも記述欄が設けられており、自分の思い等を限られた文字数の中で記述していく機会は尊重してほしい。
- ・各社とも生徒に考えさせたり、書かせたりするよう工夫されている。書く活動は大切であるが、道徳の授業では自己を見つめ考えることも大切なため、バランスに配慮した授業となるよう工夫してほしい。

(3) 主題の提示について

- ・主題が先に提示されると、答えが決められてしまうのではないかとの意見もあるが、仮にある答えが提示され、それを生徒が把握していたとしても、その答えを導き出す過程は自分自身で考えることができる。授業のめあてを提示し、それを念頭に置いて授業に取り組んでいくことは道徳においても大切だと思う。主題があると見通しを皆で共有できるため、同じ方向性で議論することができ、課題の明確化が図れる。
- ・主題が提示されていると、生徒は見通しを持つことができるため、効果的な授業が期待できるが、主題が提示されていなくても、授業者により提示することもできる。道徳の授業は、授業者が教材を分析して、主題や考えるポイントを示唆することが重要である。様々に工夫された教科書は、そうしたことが平準化できるメリットがある。一方で、教材ごとに取り扱う道徳的価値が固定化されることもありうる。教材の特質に応じて、様々なアプローチから道徳的価値に迫る授業展開の工夫が図れるよう、指導計画（スタンダード）や教育研修の充実に努めてほしい。

(4) 発問について

- ・1問のみ、複数設定されているものなど様々であるが、異なる視点からの複数の問いがあるものが良いと思う。

(5) 自己評価について

- ・自由記述より段階評価を行い、その後に評価理由を問うことでさらに内容が深まると思う。

(6) その他

- ・いじめについて、起こったことに対してどう対応するかだけでなく、もし自分自身がいじめの対象になったときにどう対処していくかということについても、取り扱う内容があると良いと思う。また、生徒と保護者が話すような働きかけが大切である。

第3回京都市中学校教科書選定委員会会議概要

1 日時

平成30年7月9日（月）19時20分から20時45分まで

2 会場

京都市総合教育センター 1階 第2研修室

3 出席者

(1) 選定委員 30名（2名欠席）

(2) 教育委員会事務局

清水教育企画監，佐藤総合教育センター所長，池田指導部担当部長，清水指導部担当部長，
諏佐学校指導課長，関学校指導課担当課長，手塚統括首席指導主事，安居首席指導主事 他

4 議事

(1) 委員長から挨拶が行われた。

(2) 答申案について事務局から説明を行った後，外部委員からの意見を踏まえ，協議した。

（当日は，選定委員会と並行して，各調査研究部会も開催された。）

(3) 答申案については，委員長提案により正副委員長預りとすることで了承された。

5 外部委員の主な意見と調査員及び事務局の回答

(1) 構成や教材等について

・読む力の十分でない生徒にとっては，どの教科書も分量が多いように感じる。教科書に掲載されている全ての教材を授業で使用するのか。

→主たる教材として教科書が中心となるが，生徒実態に応じ柔軟な授業が出来るよう，これまで作成してきた本市の独自教材や地域教材を併せて活用することが大切と考えている

・教材文の長いものは，50分授業で1教材を扱うのは困難だと感じる。教材の内容が入りきらないと思う。また，教科書が書き込み式になっているのは，道徳科の特徴なのか。ノートは使用しないのか。

→道徳科は教材の内容を細やかに学習するものではなく，生徒自身が教材を通じて，その教材で扱う道徳的価値に対する理解を深めることが主目的である。そのため，教材文のすべてを読む必要はなく，内容を捉えられればよい。教科書の書き込み欄は，その時の自分の考えや思いをメモ的に書き留められるため，有用と考える。ノートについては，独自のワークシートを使用する学校も多く，それぞれの実情に応じて使用している。

・教材文は誰が読むのか。音声CD等はあるのか。

→教師が範読したり，CDで音声を流す場合が多いが，生徒自身が読むこともある。学校や教材によって様々である。

・教科書によっては「Aさん」などと，あえて名前を隠している教材があるが。

→例えば，実際にあった話のため，固有名詞を避ける場合や，いじめをテーマにした教材の場合，同名の生徒がクラスにいた際には，トラブルにつながる可能性があることを配慮した結果であると考えている。

(2) 指導方法等について

- ・50分間の授業で自分の考えがまとまらない生徒に対するフォローはどうするのか。生徒が自分は学習が遅れているのではと不安にならないだろうか。
- 道徳科は他者と比較して評価することを目的とせず、授業でワークシート等にまとめるのも、生徒自身が感じたこと、考えたことを毎時間書き記し、自分自身のことを振り返るためである。1年間を通して、教師が生徒一人一人に寄り添いながら、成長を見取っていく。道徳科では、教材で取り扱う内容項目（道徳的価値）の核となる場面を、しっかりと生徒に伝え、「あなたならどう考えるか」という核心に迫るような授業の工夫を心掛けている。
- ・道徳科の指導においては、教師が教材内容を事前に研究しないとイケない。ただし、新たに研究の時間を確保する余裕も少ないため、いかにして効果的に授業できるのか、という点も教科書選定の大切な要素となると思うが、ポイントがあれば教えてほしい。
- 生徒が見通しを持って学習するため、可視化された教材や、ヒントのある発問等、取り組みやすい工夫があるかについて選定の視点としている。
- ・教師用の手引書のようなものはあるのか。また、教師の力量によって授業に差が出てしまうという懸念があるが、工夫されていることはあるのか。
- 教科書会社から発行される指導書のほか、本市では指導計画（スタンダード）を作成しており、これらを基に各教師が授業づくりを行っている。指導力の差については、教員研修をはじめ、各校で持ち回りで道徳の授業を実施するローテーション道徳や学年・全校道徳など、一定水準が保てるよう工夫しながら授業が行われている。

(3) その他

- ・国語科と道徳科は何が違うのか。
- 国語科は教科書の教材から筆者の主張や、教材の登場人物の行動の裏にある思いなどを読み取るものである。道徳科は、教材の登場人物等を自分のこととして捉えて考え、議論し、友人の考えなども取り入れながら、道徳的価値の理解を深め、これからの自分の将来やよりよい生き方等について考えるものである。
- ・道徳科の教科書は読み物としても非常に良いものなので、読解力向上にもつながるのではと感じる。道徳的価値を深めるという点においては、発問の内容や設定も、選定の重要な要素であり、調査研究において、留意いただきたい。